



BUSINESS REPORT

第27期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日

CONTENTS

ごあいさつ	P1
財務ハイライト	P2
セグメント情報	P3
中期経営計画	P5
TOPICS	P7
株式の状況	P10

新たな成長期を迎え、 中期経営計画を 発表いたしました。

代表取締役 兼 社長執行役員
杉本 重人



2024年3月期 決算のご報告

当連結会計年度における世界経済は、ウクライナ危機に加えて、中東情勢の緊張が一層強まる中、景気の停滞が続く欧州、回復の勢いに欠ける中国、そして堅調な米国と地域によりバラつきが見られ、全般的に先行きが不透明な状況が継続しました。

米国では、金融引締め局面にもかかわらず好調な個人消費を受けて、景気は堅調に推移した一方、中国では、民間やインフラ投資が伸長したものの、不動産開発投資の大幅な減少から、景気回復は低い伸びに留まりました。わが国では、企業の設備投資やインバウンド需要が堅調に推移し、景気の回復は緩やかに推移しました。

当連結会計年度の当社グループの連結業績につきましては、売上高は373億3千5百万円(前期売上高431億4千6百万円)、営業利益は8億4千6百万円(前期営業利益9億8千6百万円)、経常利益は11億1千2百万円(前期経常利益17億円)、親会社株主に帰属する当期純利益は7億7千8百万円(前期親会社株主に帰属する当期純利益2億6千万円)となりました。

当連結会計年度の当社グループの受注金額は、377億8千8百万円(前期370億7千2百万円)となりました。この結果、当連結会計年度末の受注残高は371億円(前期366億4千7百万円)となりました。

当社グループは、社会課題に対するイノベーションに取り組み、持続的な成長を目指しています。今般、業績低迷期から脱却し、新たな成長期を迎え、今後5年間の成長プランを中期経営計画として発表いたしました。

今後も引き続き、株主の皆様のご期待に沿えますよう、大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造し、社会に貢献していく所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

財務ハイライト(連結)

売上高 (百万円)



経常利益又は経常損失 (百万円)



経常利益率 (%)



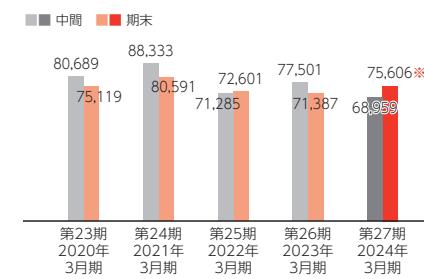
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (百万円)



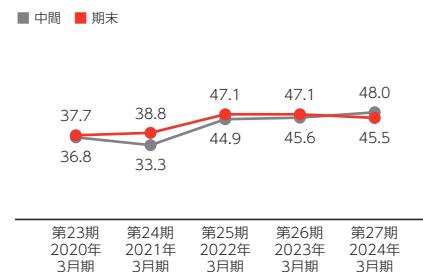
親会社株主に帰属する当期純利益率 (%)



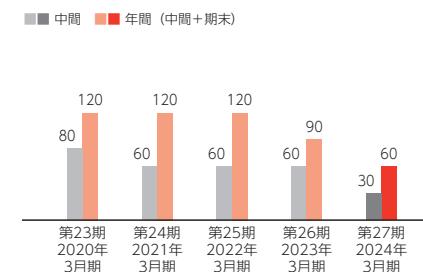
総資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



1株当たり配当 (円)



POINT

- ※1 概ね計画通りの着地となりました(達成率:売上高93%/経常利益130%/親会社株主に帰属する当期純利益141%)。
- ※2 FY23/3にて税金費用を1,434百万円計上しており、前期比で大幅に増加しております。
- ※3 FY25/3売上増に向けての棚卸資産の増加等により、総資産が拡大しております。

半導体・フォトマスク装置事業

概況

半導体・フォトマスク装置事業においては、当社事業に関連する設備投資は概ね計画通りに推移しました。

当連結会計年度の当社グループの半導体・フォトマスク装置事業の受注金額は165億1千万円(前期154億6千1百万円)、受注残高は172億円(前期147億4千2百万円)となりました。

また、当連結会計年度の当社グループの半導体・フォトマスク装置事業の連結業績につきましては、売上高は140億5千2百万円(前期92億6千2百万円)、営業利益は12億3千4百万円(前期2億5千4百万円)となりました。

セグメントの構成

シリコン等のウェハ材料用の製造装置

- JAC** (ジャパンクリエイト)
洗浄、エッチング
- NSS** (ナノシステムソリューションズ)
検査
- Z-CSET** (Zhejiang Chip Sunshine Equipment Technology)
研磨、他

フォトマスク製造装置

- Vテク** (バイ・テクノロジー)
検査/欠陥修正/測定/描画

試作・分析用機器

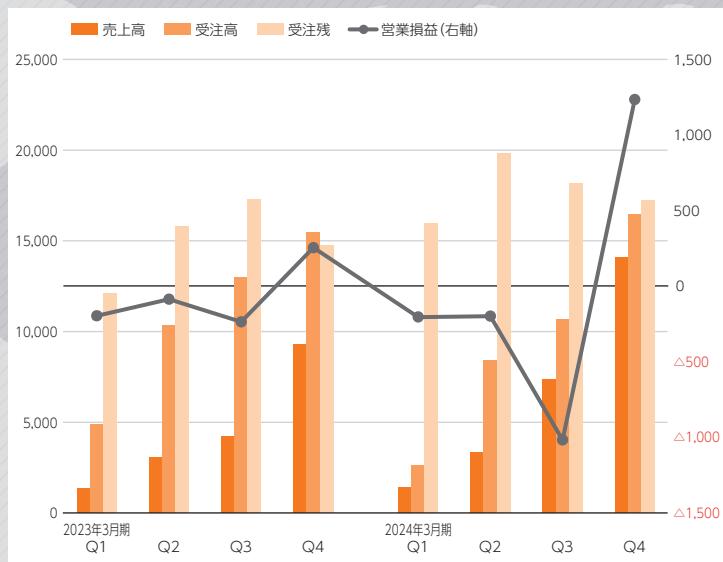
- LTJ** (リソテックジャパン)
コーデベ/レジスト解析
- JAC** (ジャパンクリエイト)
真空成膜
- NSS** (ナノシステムソリューションズ)
マスクレス露光

アドバンスドパッケージ・PCB用装置

- LET** (エルイーテクノロジー)
DI露光
- OHT** (オー・エイチ・ティー)
接触・非接触式電気検査
- Vテク** (バイ・テクノロジー)
DI露光 (海外メーカー協業)

業績および受注高・受注残の推移

(百万円)



FPD装置事業

概況

フラットパネルディスプレイ(FPD)装置事業においては、パネル市況の悪化より、設備投資が停滞しました。当連結会計年度の当社グループのFPD装置事業の受注金額は202億5千3百万円(前期206億5千4百万円)、受注残高は198億9千9百万円(前期219億4百万円)となりました。

また、当連結会計年度の当社グループのFPD装置事業の連結業績につきましては、売上高は222億5千8百万円(前期329億2千7百万円)、営業損失は2千5百万円(前期営業利益9億8千万円)となりました。

セグメントの構成

OLED・LCD・他、FPD製造装置

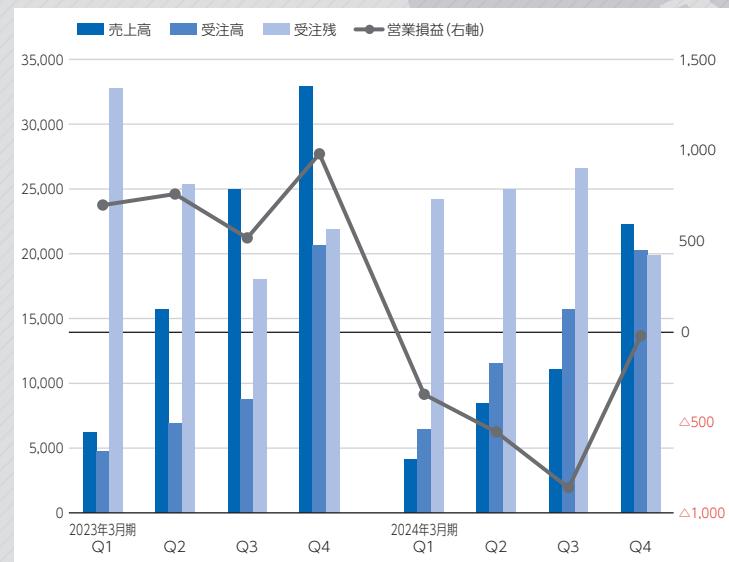
- Vテク** (バイ・テクノロジー)
露光/検査/欠陥修正/測定
- OHT** (オー・エイチ・ティー)
接触・非接触式電気検査

OLED用部材・サービス・他

- VET** (バイ・イー・ティー)
蒸着マスク(Fine Hybrid Mask/他)
- VSC** (バイ・テクノロジー・シャイン・カラーテック)
中小型OLED良品化サービス
- Lumiotec** (ルミオテック)
有機EL照明の開発・製造・販売
- FLASK** (フラスク)
OLED材料の開発・製造・販売
- CHVT** (Xianyang CHVT New Display Technology)
OLED材料の開発・製造・販売

業績および受注高・受注残の推移

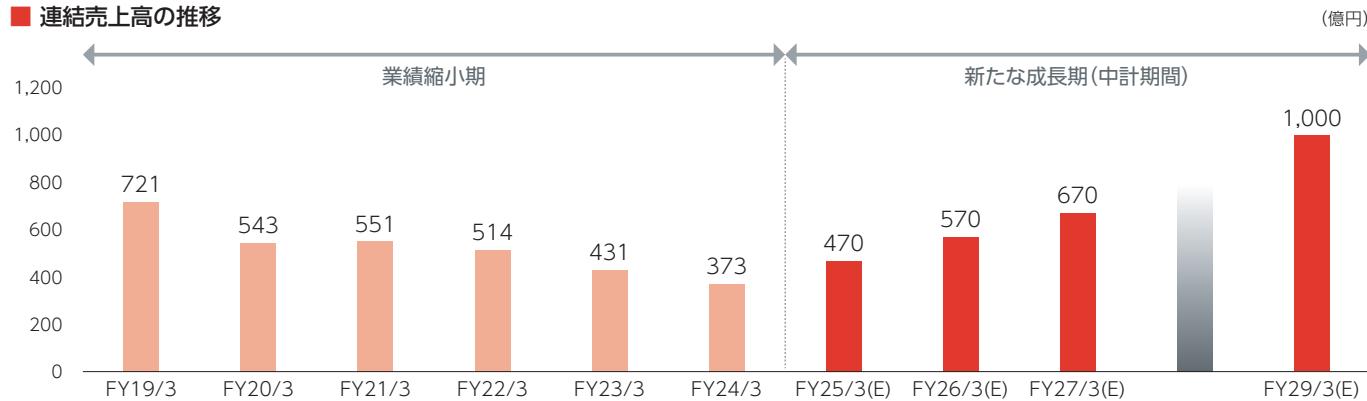
(百万円)



1 新たな成長期を迎えて

- 当社グループは、社会的課題に対するイノベーションに取組み、持続的成長を目指しています。
- 今般、業績低迷時期から脱却し、新たな成長期を迎え、今後5年間の成長プランを中期経営計画として発表いたしました。

■ 連結売上高の推移



2 数値目標について

- 売上高(高付加価値製品で構成)を一定規模(600億円程度)以上にすることでROE・PBR(株価)の大幅改善を見込みます。
2018年3月期:売上高660億円/営業利益125億円/ROE40.9%/PBR7.3倍/株価15,250円(分割後株価・2018年3月末時点)
- 2025年3月期は、半導体・フォトマスク装置事業の成長による売上高470億円/営業利益16億円を見込みます。
- 2026年3月期以降は、売上高が一定規模に達することで、利益の大幅増加を見込みます。
- 2029年3月期は、売上高1,000億円/営業利益200億円を目指します。

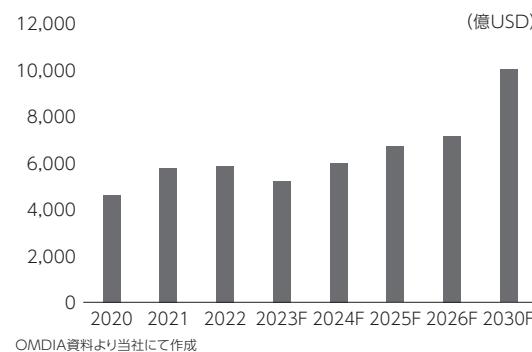
指標等	2024年3月期(実績)	数値目標			
		2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2029年3月期
売上高(億円)	373	470	570	670	1,000
半導体・フォトマスク装置事業	140	225	316	358	680
FPD装置事業	223	230	230	280	250
新規事業	10	15	24	32	70
営業利益(億円)	8.5	16	45	74	200
営業利益率(%)	2.3	3.4	7.9	11.0	20.0
*ROE(%)	2.3	2.9	8.2	12.5	23.7

*ROEは、為替影響を織り込んでおりません。

3 半導体・フォトマスク装置事業について

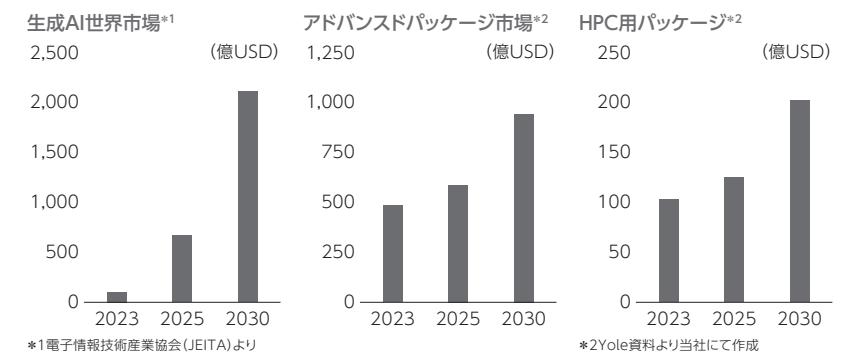
- 半導体市場は、裾野が広く、当社グループが持つ強みを活かす機会が豊富な分野です。
- 今後の持続成長が見込まれる半導体製造の分野に新しい製品・サービスを投入していきます。

■ 半導体市場は2030年に1兆USDに



OMDIA資料より当社にて作成

■ 生成AIの普及が、アドバンスドパッケージ市場拡大を牽引



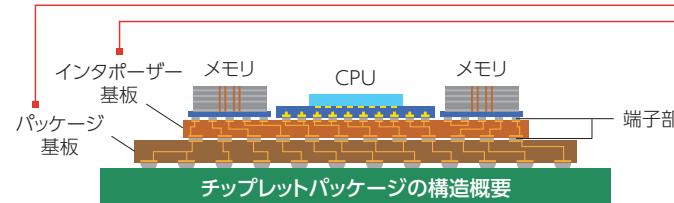
*1電子情報技術産業協会(JEITA)より当社にて作成

*2Yole資料より当社にて作成

4 アドバンスドパッケージ分野へ注力

AI用途等、最先端の半導体用パッケージング技術の微細化に対応する新製品をラインナップいたしました。

- 1 IMAGINA:**高性能CPUパッケージ基板の量産に業界で初めて対応、L/S=4/4 μ mを高タクトで実現
- 2 LAMBDI:**樹脂インタポザー、ガラスキャリア、ガラスコア基板等の量産を視野に開発、最小1 μ mに対応する高性能機
- 3 O/Sテスタ:**グループの電鍍技術による μ プローブを用い、20 μ mの狭ピッチ端子に対応する電気検査に業界初対応



1 DI露光装置 IMAGINA(イマジナ)シリーズ



HPC用 ICパッケージ基板の露光に

2 DI露光装置 LAMBDI(ラムディ)シリーズ



インタポザー基板の露光に

3 O/Sテスタ μ プローブを採用



狭ピッチ端子の電気検査に

半導体・フォトマスク装置事業の新製品①(フォトマスク分野)

脱炭素社会の実現に向けたGX(グリーントランスフォーメーション)や、地域独自の半導体のサプライチェーンの立ち中長期の持続的な成長が見込まれています。このような状況の下、各国ではレガシー半導体の生産能力を増強させ

上げを目指す動き等が世界的に活発化する中で、パワー半導体に代表されるレガシー半導体の需要については、る為に、フォトマスク製造に関連する設備の需要は増加傾向にあります。

1 欠陥検査装置「Dione(ディオオーネ)」



Dioneは、FPD用に開発された検査装置「Gemini」で培った技術をベースに、お客様のご要望を取り入れ半導体用に再設計された、高速・高精度な検査装置です。高速TDIを使って透過検査・反射検査を同時に行えるため、検査時間を1/2～1/4に短縮可能です。

加えて、省スペース設計により装置の設置スペースに制限があることが多い既存のクリーンルームから新設の工場まで、場所を選ばず様々なシーンでお使いいただくことができ、国内外のお客様から数多くのご注文と引合いを頂戴しております。

2 フォトマスクレジストレーション装置「PMARS(ピーマース)」



PMARS(Photo Mask Registration System)は、半導体用フォトマスクのレジストレーション(マスク上に形成された電子回路の幅やアライメントマークの位置)を精密に測定、露光機の補正に不可欠な信頼性の高いマスクの出荷検査データをユーザーに提供します。

独自開発の専用光学系と精密ステージ制御が実現する超解像技術を搭載、重ね合わせ測定再現性について3ナノメートル(10億分の1メートル)、ローテーションによる測定再現性で7ナノメートルを実現しています。

半導体・フォトマスク装置事業の新製品②(ウェーハ分野)

AIサーバ等、最先端の用途に向けて製造される高機能な半導体については、高速かつ大量のデータ処理が必要となる為、デバイス構造の積層化が進むと考えられています。これに伴い、高品質なシリコンウェーハの製造設備に対する需要について、中長期的な成長が見込まれています。

3 シリコンウェーハ結晶欠陥検査装置



当社グループのナノシステムソリューションズは、独立行政法人産業技術総合研究所の支援を受け、2004年12月に創業し、独自の光学技術を中核に据え、先端特殊技術分野でのニーズにお応えする研究開発型ベンチャーとしてスタートし、シリコン等半導体材料製造に不可欠な技術をお客様にお届けしてまいりました。

この度、偏光イメージング技術を用いた独自の結晶検査光学系の開発に成功し、インラインの生産装置として業界最高速のスループットである毎時133枚での検査を実現、1号機を2023年12月に出荷いたしました。

株式の状況 (2024年3月31日現在)

●発行可能株式総数	35,180,600株
●発行済株式総数	10,057,600株
●株主数	8,332名

大株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,186,200株	12.2%
杉本重人	1,174,600株	12.0%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	448,738株	4.6%
J Pモルガン証券株式会社	194,459株	2.0%
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES SE, LUXEMBOURG RE CLIENTS NON-TREATY ACCOUNT	126,900株	1.3%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	126,071株	1.3%
株式会社SBI証券	115,514株	1.2%
INTERACTIVE BROKERS LLC	94,700株	1.0%
モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社	86,053株	0.9%
島根良明	82,600株	0.8%

当社は自己株式302,348株を保有しておりますが、上記から除いております。また、小数点第2位を四捨五入して表示しております。

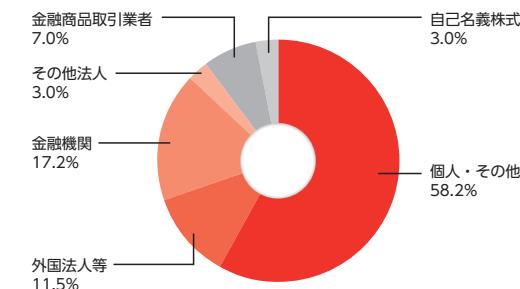
株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 毎年6月に開催
- 配当金受領株主確定日
 - ・期末配当金 3月31日
 - ・中間配当金 9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関
 - ・同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - ・同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所 東京証券取引所 (証券コード 7717)
- 公告の方法 電子公告とします。但しやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。公告掲載の当社ホームページアドレス <https://www.vtec.co.jp>

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

●株式所有者別分布



会社概要 (2024年6月26日現在)

社 名 : 株式会社バイ・テクノロジー
設 立 : 1997年10月16日
本 社 所 在 地 : 横浜市保土ヶ谷区神戸町134 横浜ビジネスパークウイーストタワー9F
TEL : 045-338-1980 FAX : 045-338-1781

取締役会

代 表 取 締 役	杉 本 重 人
取 締 役	神 澤 幸 宏
取 締 役	城 戸 淳 二
取 締 役	西 村 豪 人
取 締 役	立 山 純 子

※城戸淳二、西村豪人、立山純子は、社外取締役です。

監査役会

常 勤 監 査 役	中 原 有 庸
監 査 役	住 田 勲 勇
監 査 役	阿 比 留 修
監 査 役	千 葉 繁 樹

※阿比留修および千葉繁樹は社外監査役です。

執行役員

社 長 執 行 役 員	杉 本 重 人
専 務 執 行 役 員	神 澤 幸 宏
常 務 執 行 役 員	天 日 和 仁
常 務 執 行 役 員	米 澤 良
常 務 執 行 役 員	水 村 通 伸

執 行 役 員	天 野 勇
執 行 役 員	松 元 康 博
執 行 役 員	伊 藤 行 男
執 行 役 員	大 淵 一 人
執 行 役 員	張 尚 敦

執 行 役 員	菅 井 健
執 行 役 員	羽 森 寛
執 行 役 員	芳 賀 一 実
執 行 役 員	新 井 敏 成
執 行 役 員	内 藤 剛 史

WEBサイトのご案内

ニュースリリースや各種資料がご覧いただけるほか、新事業やESG等の取組みについて多数掲載しています。ぜひご覧ください。

TOPページはこちら



IR情報はこちら

